

2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 1 月 31 日作成)

| | | |
|------------------------------|--|---|
| 小委員会名 | 地盤震動小委員会 | 主 査 名：久田嘉章 就任年月：2013 年 4 月 |
| 所属本委員会 (所属運営委員会) | 構造委員会 (振動運営委員会) | 委員長名：緑川光正 主 査 名：宮本裕司 |
| 設 置 期 間 | 2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月 | |
| 設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き) | <ul style="list-style-type: none"> ・震源から表層地盤までの強震動・地盤震動に関連する国内外の最新の研究動向、予測地震動の作成と実務に供する際に発生する様々な課題を整理し、シンポジウムと出版物を通じてその成果を公表する。 ・各年度の活動としては、毎年秋に地盤震動シンポジウムを開催し、上記目的を達成する。同時に年次大会にあわせ、開催地の地盤震動研究に関して情報を交換する地域交流会を開催する。具体的には下記の通りである。 ・2013年度：地盤震動刊行物「基礎から学ぶ地盤震動」を執筆し、第41回地盤震動シンポジウム、および、第33回地盤震動地域交流会を企画・実施する。 ・2014年度：刊行物「基礎から学ぶ地盤震動」を出版し、強震動・地盤震動に関連する国内外の最新の研究動向、予測地震動の作成と実務に供する際に発生する様々な課題を整理し、第42回地盤震動シンポジウム、第34回地盤震動地域交流会、および、基礎振動委員会と連携し2014年度大会のPDを企画・実施する。 | |
| 委員構成 (委員名 (所属)) | 委員公募の有無：無 | |
| | 主査：久田嘉章 (工学院大学) 幹事：永野正行 (東京理科大学)、吉村智昭 (大阪大学) 委員：関口春子 (京都大学)、関口 徹 (千葉大学)、松島信一 (京都大学)、 上林宏敏 (京都大学)、小山 信 (建築研究所)、高井伸雄 (北海道大学)、 森川信之 (防災科学技術研究所)、大野 晋 (東北大学)、神野達夫 (九州大学)、 高橋広人 (応用地質)、境 有紀 (筑波大学)、藤本一雄 (千葉科学大学) | |
| 設置 WG (WG 名：目的) | 地盤震動シンポジウム企画WG ：シンポジウムの企画・調整 強震波形作成と利活用WG ：強震波形作成と利活用に関する研究・調査 | |
| 2013 年度予算 | 550,000 円 | ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.ajj.or.jp/kouzou/s4/index.htm |

| 項 目 | 自己評価 |
|--|---|
| 委員会開催数 | 6 回 (年度内計画を含む) |
| 刊行物 (シンポジウム資料等は除く) | |
| 講習会 | |
| 催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会承認企画 | 1. 第33回地盤震動地域交流会 (2013) 参加者数 92名 2. 第41回地盤震動シンポジウム「2011年東北地方太平洋沖地震から分かった新たな知見と予測地震動への反映 - 巨大地震に備えるための地盤震動研究(その3)」 『同名資料』 参加者数131名 |
| 大会研究集会 | |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等 | |
| 目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係) | 2011 年東北地方太平洋沖地震からほぼ 3 年以上経過し、地盤震動に関連するさまざまな研究成果が当委員会の委員などから発表されている。さらに今後、南海トラフ巨大地震や首都直下地震などへの対策が求められている。当小委員会主催した諸行事には多数の参加者があり、活発な討議も行われた。刊行物の執筆も終了し、査読を残すのみである。年度目標はほぼ達成できたと考えている。 |
| 委員会活動の問題点 ・課題 | 関連する他委員会・WG との棲み分けが明瞭でないところがあり、委員の重複や負担などの点で、次年度に向けて調整が必要と思われる。 |